

# 赤光

1969年  
4月21日  
号外

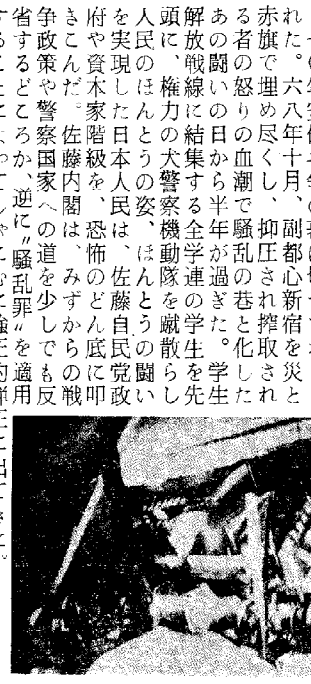
万国のプロレタリア、被抑圧民族  
出結せよ！  
マルクス・レーニン主義の旗  
の下、プロレタリア世界革命を遂行せよ！  
日本マルクス・レーニン主義者同盟

編集人  
日本マルクス・レーニン主義者同盟  
中央委員会機関紙編集部  
高原 莊 司  
発行所  
東京都千代田区神田神保町2-28  
（白新ビル）  
レボリューション社  
電話 (262) 1 2 6 0

## 全国全都で蜂起し

## 首都叛乱の怒濤の進撃を

全都の闘う被抑圧人民諸君！  
全都の戦闘的學生諸君！  
反戦青年委員会に結集する労働者諸君！



七〇年安保斗争の幕は切つておとされた。六八年十月、副都心新宿を災と赤旗で埋め尽くし、抑圧され搾取される者の怒りの血潮で騒乱の巷と化したあの闘いの日から半年が過ぎた。学生解放戦線に結集する全学連の学生を先頭に、権力の犬警察機動隊を蹴散らし人民のほんとうの姿、ほんとうの闘いを実現した日本人民は、佐藤自民党政府や資本家階級を、恐怖のどん底に叩きこんだ。佐藤内閣は、みずからの戦争政策や警察国家への道を少しでも反省することによって、逆に「騒乱罪」を適用するところから、逆に強圧的弾圧に出でた。しかし、沸きあがる人民の闘いを、力で圧殺することはできない。今尚続く10・21関係の逮捕をもととせず、我々は進撃している。騒乱罪指弾容疑で指名手配されている、学生解放戦線都連合議長久富可美は、断固として逮捕を拒否し戦闘的學生のスクラムに防衛されるの最先頭に立って闘い続けている。一月東大決戦II列品館・安田講堂の大闘争こそ、我々が騒乱罪をはねかえし更に敵を追いつめていく証拠である。

警察や新聞・テレビは、学生の闘う力が弱まっているかの如き発表を意図的にやつて、それらは全く逆であり、それどころか学生は今、四・二八総叛乱にむけて慎重かつ充分な準備をしている。叛戦青年委員会の青年労働者は、四月二〇日一年ぶりに全国動員をなしたとげ、四・二八闘争への決起を決議している。この勢いに脅えた政府権力は、四・二八に再び騒乱罪を適用してでも強引に闘争圧殺を企んでいるが、「張子のトラ」は二度目に出てくる時は茶番でしかない。

断固、徹底的な四・二八闘争を、人民戦争として闘いぬき、敵権力におわりなき恐怖を叩きつけよう！

- 一、安保粉砕、沖繩解放、四・二八全国政治ゼネストを実現し、首都叛乱を貫徹せよ！
- 二、人民戦争、沖繩解放、四・二八叛乱を実現せよ！
- 三、全国学生労働者すべての被抑圧人民の方で、四・二八叛乱を貫徹せよ！
- 四、全国学生労働者すべての被抑圧人民の方で、四・二八叛乱を貫徹せよ！
- 五、十一月佐藤訪米阻止大闘争へむけ、六九年階級斗争を安保・沖繩・大学で怒濤の進撃を！

## 首相官邸アメ大を包圍せん滅せよ！

## 安保粉砕！沖繩解放！ 四二六人民戦争総叛乱を！

日本階級斗争は、七〇年を前に大いなる激動を開始した。それはまさに、七〇年安保斗争が、巨大な人民の力によって開始されたことを意味している。安保・沖繩・大学の佐藤内閣は兇悪な人民抑圧内閣として人民の鮮血に染んで登場している。ベトナムを頂点とするアジア階級斗争の大昂揚のまに、武装革命斗争に決起している被抑圧人民の力のまに、アメリカ帝国主義のアジア侵略戦争政策は大破綻をきたしている。沖繩侵略基地は益々忙しく、日夜血みどろの武器と兵士を積みおろし、B52戦略爆撃機を離陸させている。恒常的な領空侵犯飛行をしている米軍機が、15日朝鮮上空で懲罰をうけた。



日米安保条約と沖繩戦略基地は、日米帝国主義同盟の軸である。アメリカ軍の侵略・強盗行為は直接安保に縛られた日本人民と沖繩基地にはねかえり、我々は知らず知らず（本当は安保を許していることによらず）必ずしも知らずにはなく、侵略と反革命的強盗戦争に加担している自分を発見する。その時、我々は、歴代自民党政府！資本家階級に欺され続けてきたことを痛苦をもって確認せざるを得ない。我々の怒りは、底の方からシリシリと沸きあがり、遂に沸騰点に達した。日米安保を粉砕し、沖繩を解放し、日米帝国主義同盟を粉砕しなければならぬ。日本帝国主義政府のアジア再侵略政策を見抜き、これを破砕し、佐藤自民党政府を打倒しなければならぬ。

今、日本人民の日は安保・沖繩・大学に集中している。ここに闘いの芽を見、これをめくつて、日本全体が激しく揺れ動いていることを、正しく見抜いているからである。反戦青年委員会の青年労働者は再び動き出した。学生は勿論闘う。そして権力もまた、安保・沖繩・大学のまわりで決起する人民に、必死の牙を向けている。我々は、権力との緊張した対峙関係を認識した上で、これを我々自身の力で能動的に有利な局面につくりかえていかなければならぬ。

24日、沖繩からの復帰協決死隊五〇〇名が暗海に到着する。B52撤去、基地撤去を要求する沖繩県民の悲願を、我々本土人民の闘いによって実現しなければならぬ。そういう任務と義務を我々は負っている。そうした自覚の上に立って、戦後二〇年沖繩県民を異民族米帝の植民地的支配下に放置しておいたことへの自責を踏えて、沖繩決死隊の諸君と連帯しなければならない。勿論それは、4・28への決起であり、総叛乱！首相官邸・米大使館の包圍滅滅の闘いの実現である。全国政治斗争としての展開の上に実行される、首都叛乱である。関西、九州を拠点とする全国各地での闘いが、また、首都叛乱を支えるだろう。